# 千種区の観光

～SNSによる魅力発信～

# 発表の流れ

・ねらい

・施策

・予算

・まとめ

・参考文献

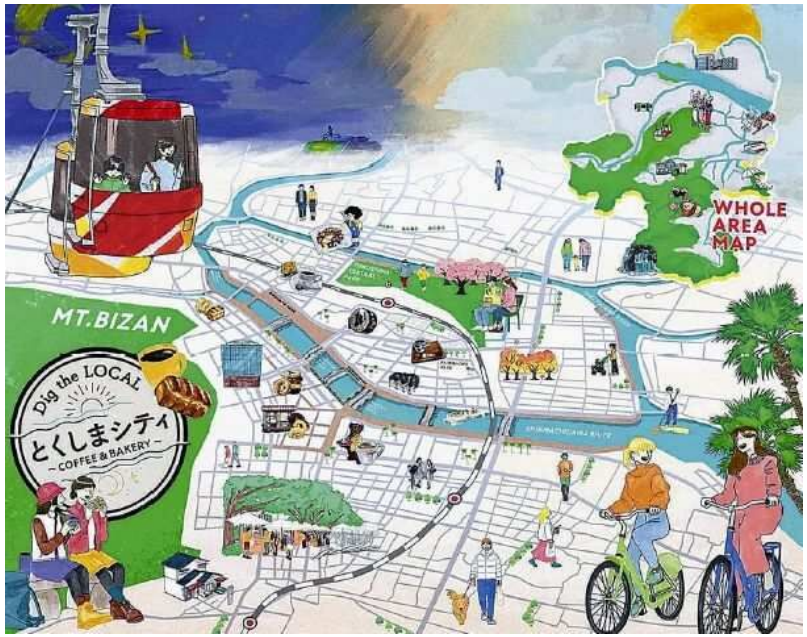
# ねらい

千種区のカフェや寺、公園などの魅力をSNSを用いて発信することで千種区にさらに興味を持ってもらい訪れてくれる人を増やす。

# カフェ

・ターゲット→若年層

・発信方法→フリーペーパー、SNS




徳島市の「まちめぐりデジタルマップ」

↓

この取り組みを千種区が模倣し、
千種区の「まちめぐりデジタルマップ」を作る

# カフェ

しかし、行政が特定の民間企業を宣伝するマップを税金を用いて
直接作成することは、公平性に欠ける。

↓なので

大学などの民間の団体にマップの作製を依頼する

↓

・フリーペーパーで配布する
・若い人がターゲットのため、若い利用者が多いインターネット(SNS)に掲載する

# お寺

- 千種区内の寺院総数：77カ寺

  Ex.）日泰寺、城山八幡宮、上野天満宮、 桃巌寺

【施策】

- SNS発信

  YouTubeなどの動画投稿型SNSによる情報発信

- チラシ作成(発行部数：1600部)

→年配者の利用頻度の高い施設(コミュニティセンター、社会福祉協議会、スポーツセンターなど)に、配架する

# 祭り

- 毎月21日　「覚王山日泰寺　弘法の日縁日」
- 春、夏、秋　「覚王山祭」
- 夏　学区ごとの盆踊りなど
- 10月上旬　千種区民まつり

対象→祭りの情報を知らない人（特に若者）

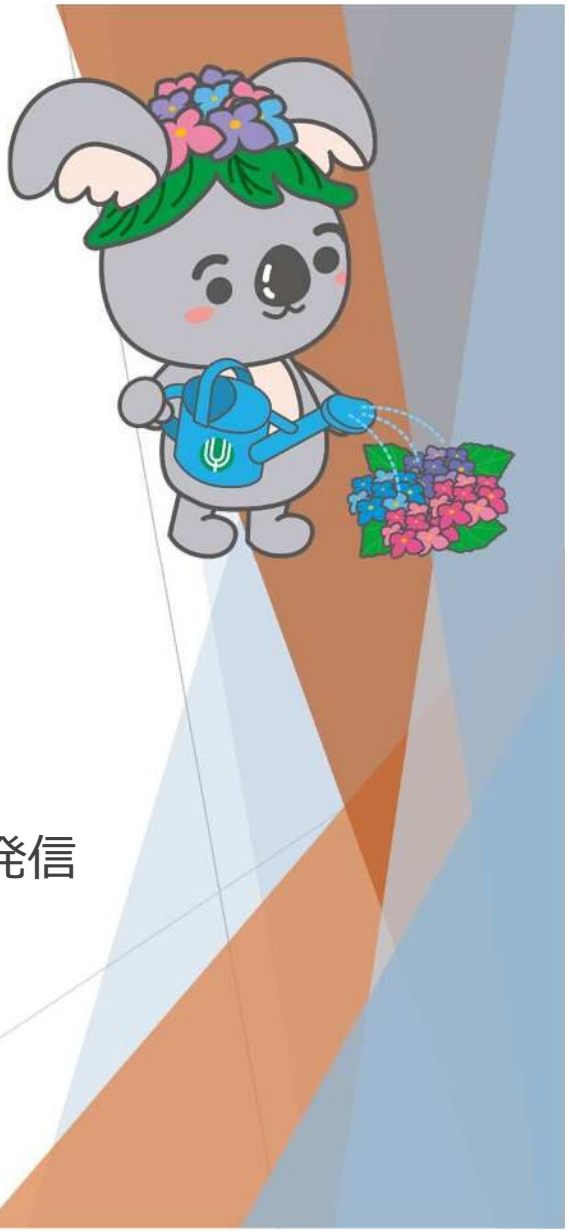
施策→千種区のインスタ、TikTokで情報を発信
　　前回の祭りの写真や動画をアップ
　　今回の祭りの一押し企画を紹介

# 公園

- 散策も球技も楽しめる公園である千種公園
- 豊かな自然を満喫でき、花見の名所でもある名古屋市平和公園

対象 → 子供を持つ家庭やカップルなど

インスタグラムなどのSNSを用いて公園の様子、イベントなどを発信



# 予算

**フリーペーパー費用**

| 宣伝広告費 | |
|---|---|
| 発行枚数 | 2,000枚 |
| 1枚当たりの製作費用 | 約10円 |
| 合計 | 約20,000円 |

# 予算

**シニア世代に向けたチラシ作り**

| 宣伝広告費 | |
|---|---|
| 一か所当たりの枚数 | 100枚 |
| 千種区のスポーツセンターやコミュニティーセンターの設置個所 | 16か所 |
| 一部当たりの印刷費用 | 約10円 |
| 合計 | 16,000円 |

# まとめ

- ①カフェ ～ 若い方 ～ フリーペーパー
- ②お寺 ～ 年配の方 ～ チラシ
  若い方 ～ 動画
- ③祭り ～ 情報を知らない方 ～ SNS
- ④公園 ～ 家族連れの方など ～ SNS

千種区の魅力発信をしていく！！

# 参考文献

読売新聞
https://www.yomiuri.co.jp/local/tokushima/news/20230121-OYTNT50067/
ちくさん
https://chiku-san.com/20230711-natsumatsuri-chikusa-matome/

# 千種区魅力発見運動会

# プレゼンの流れ

テーマ設定の理由

イベント概要

費用

効果

まとめ

# テーマ設定の理由

**～千種区の特徴～**

①文教地区である

高校、大学の生徒数が約3.3万人　⇒ 全区で最も多い

高校、大学が計12校　⇒ 全区で最も多い

(参考)R5インターンシッププレゼン資料

②飲食店等の商業施設、歴史的建造物、テーマパークが存在する

星ヶ丘テラス、日泰寺、東山動物園・・・

# テーマ設定の理由

**～テーマ設定基準～**

①千種区の特徴を生かし、さらなる魅力発信を行いたい

②若者世代を地域イベントに積極的に参加させたい

③小中学生向けのイベントが多い

若者にとってスポーツは身近！

**千種スポーツセンターを利用し運動会を開催！**

# イベント概要

詳細

・対象者：千種区内在住or在学中の高校生、大学生

・会場：千種スポーツセンター第1競技場

・定員：1チーム20人×6チーム

・参加費：無料

・応募方法：千種区のホームページからチームごと応募（応募多数の場合は抽選にて出場チーム決定）

・景品：千種区内のお店で使えるクーポン

例）１位：5,000円、2位：3,000円、３位：1,000円

課題

・出場者が集まらない可能性あり

→ポスター、駅構内スクエアビジョン、SNSによる積極的な広報活動

→上位チームに景品を進呈することで参加意欲を高める

・会場を予約しなければならない

→名古屋市を通して予約することで費用無償化

# イベント概要

競技種目

- バレーボール
- アーチェリー
- ユニバーサルスポーツ（モルック、ボッチャ）
- 千種区考案ゲーム

課題

- チームによって技量に差が出る競技あり

→ハンデを設ける。技量関係なく楽しめるスポーツも取り入れる

# 千種区考案ゲームの例

**巾着の中身はなんだろな？**

- 「箱の中身当てゲーム」の箱の代わりに友禅染の巾着袋を用いる

チーム内でリレー形式でゲームを行い、一番速く終わったチームが勝ち

- なぜ友禅染の巾着？

→千種区に友禅染の工房があるから

水ノ友禅工房…1995年生まれの若い女性が工房を営んでいる

- 利点：体格や性別、技能の差関係なく楽しめる＋千種区の独自性、魅力発信

# イベント概要

協賛

- 水ノ友禅工房
- 千種区内の飲食店や雑貨店

課題

- 協賛企業が集まらない可能性あり

→ポスター、駅構内スクエアビジョン、SNSによる積極的な広報活動

→企業に電話をかけて直談判

# 費用

| 費目 | 内訳 | 合計 |
| --- | --- | --- |
| 広報費 | ポスター150枚＝20千円<br>スクエアビジョン（藤が丘駅・星ヶ丘駅・本山駅）＝80千円<br>スクエアビジョン（栄駅）＝200千円 | 300千円 |
| 保険 | 最安プラン | 2千円 |
| 景品代 | 5000円クーポン×20＝100千円<br>3000円クーポン×20＝60千円<br>1000円クーポン×20＝20千円 | 180千円 |
| 昼食代 | お弁当800円×120＝96千円<br>飲料水100円×120＝12千円 | 108千円 |
| 備品代 | モルック7000円×3＝21千円<br>ボッチャ5000円×3＝15千円<br>巾着の中身1000円×6＝6千円 | 42千円 |

合計：632千円

# 効果

・**千種区の認識**

→景品のクーポンによって、千種区内の飲食店や商業施設、テーマパークに足を運ぶことが期待される

・**若者のイベント参加機会の増加**

→参加者が友人に話をし、千種区が話題に出る

・若者同士の交流の増加

・ユニバーサルスポーツの認識

# まとめ

- 若者を対象としたスポーツ大会の開催

- 皆が楽しめる種目＋千種区考案の種目も取り入れる

⇒若者が楽しめる場の提供

地域活性化、千種区の魅力発信への貢献

# みんなのふるさと
# 千種区

～多文化共生でまちづくり～

# 目次


1、千種区の現状

2、目的

3、具体的な施策提案

4、(1)音楽

　(2)お祭り

　(3)教育

5、まとめ

# 1、千種区の現状

居住区別外国人住民数（令和4年末）

# 1．音楽フェス

【目的】

国ごとに異なる音楽を共有することで
異文化交流を図る

# 【具体的な手法】

## ○それぞれの国の音楽を共有し合う

例）民族楽器を持ち寄って演奏する

## ○屋外で開催

例）平和公園、東山公園

→屋外で開催すれば気軽に訪れやすい(人が集まりやすい)

## ○フェス飯

屋台を通して他国の食文化を提供することで異文化に触れる機会になる

# 【広告】

公式HP、広報、各種SNS、駅の広告などを利用する
→多くの人の目に触れることができて集客を見込める

例)ホーム柵ステッカー広告(東山線)

| 駅名 | 標準販売料金(税抜) |
| --- | --- |
| 千種 | 60,400円 |
| 星ヶ丘、藤が丘 | 53,200円 |

(1か月で)

# 2. お祭り

【目的】

外国人も楽しめる地域のお祭りを実現

【考慮する点】

・参加しやすいこと

・本来のお祭りの姿を維持

・外国人にもお祭りに触れてもらう機会を作る

→お祭りの体裁はそのままに

無理ない範囲で異文化の内容を取り入れる

【実施する政策】

〇外国語を用いたお祭りの広告

→お祭りの存在を知ってもらう

（例：X / Facebook / 駅のポスター）

〇外国の音楽を取り入れた盆踊り・ダンス

→盆踊りのプログラムを残しつつ

異文化にも触れることのできる

〇屋台に使用している食品のマークを設置

→宗教上口にできない食品を一目見るだけで分かるように

外国人も気軽に屋台を利用できる

〇浴衣＋民族の伝統衣装で参加OK

→自国のお祭りで着ている伝統衣装で参加

外国人も楽しめる・盛り上がることのできる環境

〇運営委員会に外国人枠を設ける

→外国人もお祭りの運営（準備から片付けまで）に参加

外国人の意見も取り入れることでより多文化共生を促進

地元愛に繋げる（第二の故郷）

【予算】

広告費（千種区内の地下鉄11駅構内）：約64,000円／1か月

---

【まとめ】

1．これらの政策を千種区主催の「区民まつり」で実施

→外国人の参加するお祭りをテンプレートに

2．地域主催のお祭りの運営に学生（外国人留学生を含む）が参加できるように各運営委員会に声かけ

→これらの取り組みが地域のお祭りでも行われるように

外国人も参加しやすい・みんなが楽しめるお祭りが実現

# ３．教育

## 外国人児童同士のコミュニティづくり

学校のカウンセリングルーム等とは別に、外国人児童同士でつながる場所を作る

家、学校以外の第3の居場所

外国人の子供たちの孤立を防ぎ、子供同士のつながりを作る

# 給食会

土日両親が不在にしている児童を対象に、コミュニティセンターで一緒にご飯を食べるイベント

外国人児童同士だけではなく、日本人と外国人のつながりも

外国の料理を提供することで、多文化理解につながる

# 予算（10日間開催／1か月）

| 人件費 | 1万円×3人×10日 | 30万円 |
| --- | --- | --- |
| 給食費 | 300円×30人×10日 | 9万円 |
| 合計 | | 39万円 |

# 日本語教室

日本語に不慣れな外国人児童を対象に、日常会話などの初歩的な日本語を教える

日本で暮らす際のマナーや文化も教える

【運営体制】

平日の放課後から夕方まで

周辺の大学からボランティアを募集し、教えてもらう

民間企業やNPO法人に委託

# 予算（22日間開催／1か月）

| 人件費 | 1万円×3日×22日 | 66万円 |
| --- | --- | --- |
| 教材代 | 2000円×　30人 | 6万円 |
| 合計 | | 72万円 |

# ５、まとめ

様々な施策を通して、外国人の方が社会に参加し、住みやすさを感じてもらうことを目指す

すべての千種区民に、千種区のことを「ふるさと」だと思ってもらえるようなまちへ

# 参考文献


〇https://www.kotsu.city.Nagoya.jp/j/pc/ABOUT/TRP0000522/交通広告メディアガイド2023.pdf

Transit Advertisement MEDIA GUIDE 2023.名古屋市交通局

〇https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/cmsfiles/contents/0000080/80856/04-Gaiyou.pdf　令和4年名古屋市外国人住民統計【概要版】.名古屋市

# わかもの防災講義

# 目次

1. テーマ
2. ターゲット
3. 目的
4. なぜ
5. 授業の概要
6. 予算

# テーマ

## わかものに向けた
## 災害啓発のための講義

# 目的

## 若者の防災意識を
## 高めるため

# なぜ単位認定型講義

**体験会**

**講義**

**単位認定型**
**集中講義**

# 日程・場所

講義×3日

体験会
一泊二日

@椙山女学園大学

# 講義型授業ですること

１日:自助について、考えてみよう

２日:AED・人口呼吸、災害映像と被災者の体験

３日:体験会の準備

# 体験会でやること

前提：大学にいるときに地震発生→断水し体育館の倒壊の恐れなし

- 一泊二日
- 非常食を食べる
- 仮設トイレの体験
- お米の炊き出し
- 栄養計算をする
- 作ってみる→新聞紙スリッパ、ビニール袋でカッパなど

# 予算

単位：千円

| 内訳 | 金額 |
| --- | --- |
| 需用費（食糧費） | 46,950円 (47千円) |
| 需用費（その他） | 68,700円 (69千円) |
| 役務費 | 13,000 (13千円) |
| 使用料及び賃借料 | 35,420 (36千円) |
| 合計 | 164,070 (165千円) |

大学生の

# 防災意識を高めるプロジェクト

# 目次

**①ご提案内容**
- 現状の課題＋根拠
- 理由　　など

**②具体的な中身**

**③まとめ**

Let’s GO！！

NEXT

# ①私たち５班がご提案したいこと

**○実施案**

・**防災グッズ（衛生用品）の18歳～24歳の新規転入者（大学生）への配布**

＊防災グッズ（衛生用品）は、必要量ではなく一部を配布する。（後述）

・**啓発活動**

→渡した後に、各自で追加で準備をしてもらえるように促す。

# ①私たち５班がご提案したいこと

## ○対象者

18歳～24歳の新規転入者（**大学生　下宿生**）

## ○想定人数

**1000人**

＊参考値：15歳～19歳転入数**106人**＋ 20歳～24歳転入数**691 人**(計**791人**)

出典：統計なごやweb版 令和４年度千種区転入数

# A）なぜ大学生なのか（課題）

**千種区の特色：大学が多い。**（７大学のキャンパスあり）

大学生は、**自宅から大学に通う学生（自宅生）**と**下宿をする学生（下宿生＝新規転入者）**の２タイプがあると想定できる。

**【考えられる課題】**
**下宿生は、自宅生に比べて備蓄の準備ができていない可能性が高いと考えられるから。**

# B）根拠①

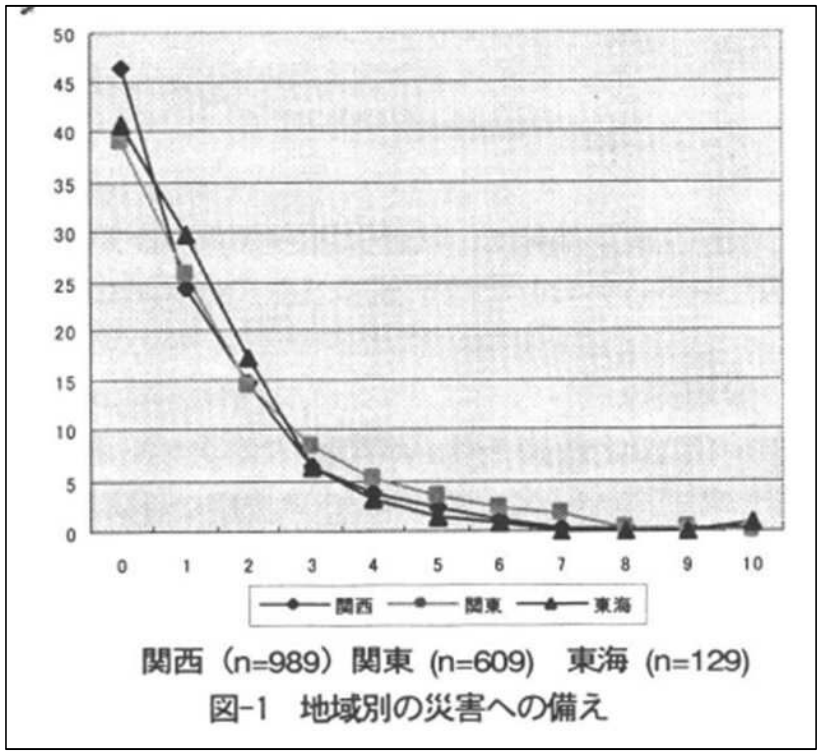



図１
「懐中電灯、ラジオ、飲料水、風呂の水、保存食、**救急袋**、**非常袋**、家具の固定、避難所の認知、家族との緊急時の集合場所の検討の有無の10項目に絞り、災害に向けて大学生がどのように備えをしているかと学生の住居地域との関係を見たもの」

「**一番左が10項目すべてに対し準備していない/知らないと回答した人(0)**で、図は右に行くにつれて備えの多さを示している」

参照　大学生の防災意識についての調査研究　河田恵昭・船木伸江（2004年）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasdis/2/0/2_115/_pdf/-char/ja（2023/09/08時点）

# B）根拠②

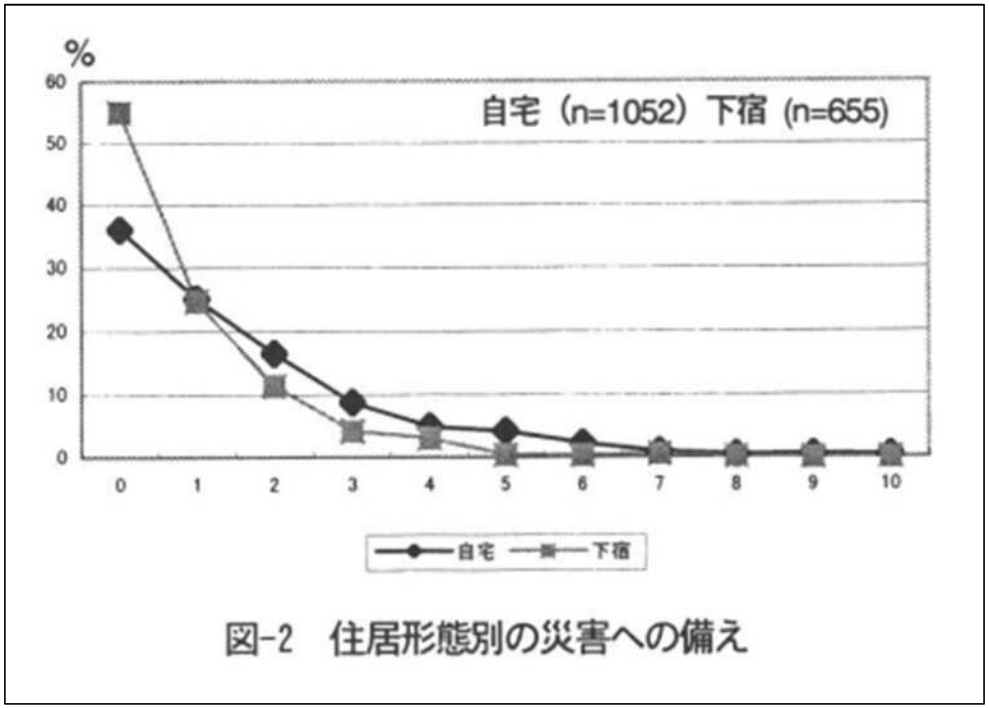



図-2　住居形態別の災害への備え

自宅生は、「家族が備えを行っている可能性から、自宅生と下宿生の防災意識には大きな違いが予想できる。また、各自治体が地域の避難所として指定しているものの多くは、公立小中学校や公民館などの公共施設である。この点でも、自宅生は住居地域になじみが深いため、下宿生との違いが予測される。**下宿の場合は、学生の間だけの仮住まいという感覚がどうしても備えを疎かにしているということが考えられる**」

参照　大学生の防災意識についての調査研究　河田恵昭・船木伸江（2004年）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasdis/2/0/2_115/_pdf/-char/ja（2023/09/08時点）

# Ｃ）なぜ防災グッズで防災系は啓発をするのか

**Q.なぜ防災グッズによる啓発なのか？**

【考えられる課題】

**下宿生は、自宅生に比べて備蓄の準備が**
**できていない可能性が高い。**

**必要な防災グッズ群の一部を配布**

**大学生に対して備蓄の動機付け（導線づくり）**

# D）なぜ衛生用品を配布するのか

災害直後は…

**医療体制が整っていない。**

また、免疫低下などによる

**感染症への集団感染の防止**

さらに、

**衛生用品は一見防災用品と関連なさそうで、下宿生は衛生用品を十分に備えていないと考えられる。**

**水や食料品以外の備蓄もしっかりしてほしいんだ！！**

# E）実施目的とその効果

**目的①**

- 被災時、避難が必要な場合以外は自宅避難になる。
- →災害直後に自宅で生活を送れる力をつける

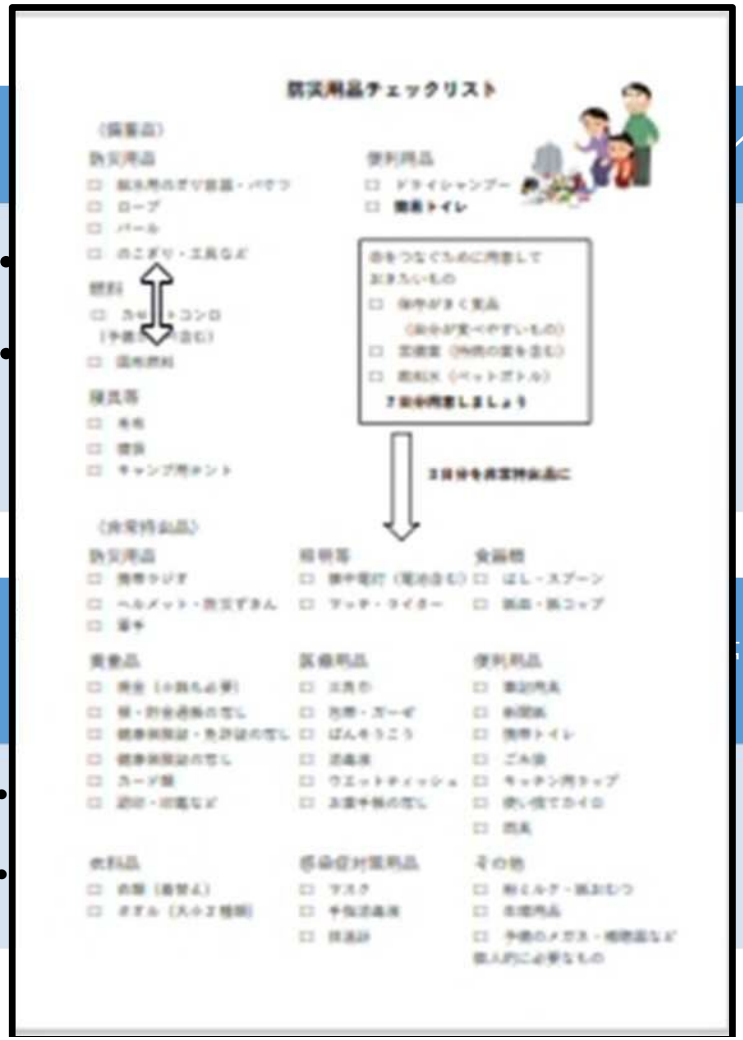
**目的②**

- 災害リスクが比較的低い千種区は、在宅避難がメイン
- →「自助」を促すために災害対応能力の向上

**効果**

- 今後の生活の中で千種区以外でも自分の力で生活できる

# ②リュックの中身




ート

| ごみ袋 | 名水 |
| --- | --- |
| • 名古屋市指定<br>• 10枚 | • みんなに知ってもらうため<br>• 1本 |

| ビニール手袋 | 軍手 |
| --- | --- |
| • 衛星作業用<br>• 10枚（5組） | • 作業用<br>• 1組 |

# ★なぜ凝固剤とゴミ袋が入っているのか

**〇凝固剤**

→大学生は用意をしていないように思われる。

**〇ゴミ袋**

→・単にゴミ袋として使える。

・凝固剤とゴミ袋を組み合わせてトイレ替わりに。

（在宅避難の場合でも、避難所にいる場合でも併用可）

✖ 防災グッズを渡すだけ

→持ち帰って中身を確認しない可能性

防災について知ることができない

○ 防災グッズを渡す

チェックシートの説明

中身の説明

→防災に対しての意識↑

# ③まとめ

防災グッズを渡す＋説明

中身やチェックシートから防災について知ることができる

防災啓発

一人ひとりが災害時、自分の力で
生活できるように！